

RECORDING AND REPRODUCING METHOD OF INFORMATION

Publication number: JP60185228

JP 02 557 335

Publication date: 1985-09-20

Inventor: ISODA SATORU

Applicant: MITSUBISHI ELECTRIC CORP

Classification:

- international: B41M5/26; G03C1/72; G03C1/73; G11B7/00; G11B7/004;
G11B7/24; G11B7/244; G11B7/30; G11C13/04; B41M5/26;
G03C1/72; G03C1/73; G11B7/00; G11B7/24; G11C13/04;
(IPC1-7): B41M5/26; G03C1/72; G11B7/24; G11C13/04

- european: G03C1/73B; G11B7/00

Application number: JP19840040806 19840302

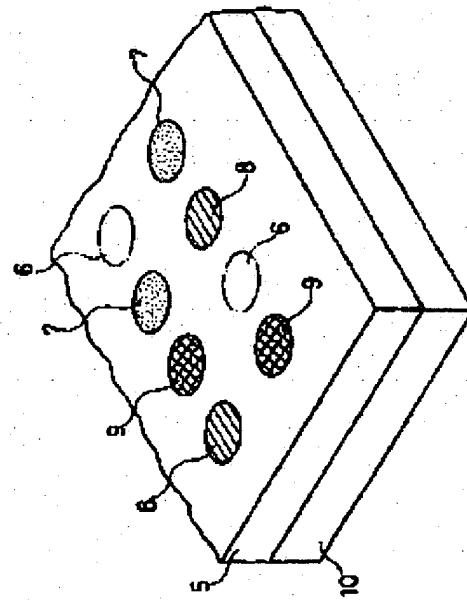
Priority number(s): JP19840040806 19840302

Report a data error here

Abstract of JP60185228

PURPOSE: To enable recording and reproduction utilizing the optochemical change of a recording medium for living bodies by using a specific biomaterial as a recording medium.

CONSTITUTION: A thin bacteriorhodopsin film 5 is formed on a substrate 10 and blue laser light is irradiated on the substrate kept at -120 deg.C. The reflectivity or transmittance of the light in irradiated parts 7-9 changes according to the intensity of irradiation as compared to the part 6 where the laser beam is not irradiated, thus realizing the recording having a gradation. Reproducing light having 500-600nm or 600-750nm wavelength is used in the stage of reproduction. Red laser light (>700nm wavelength) is irradiated thereon to erase the recording.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 実用新案登録公報 (Y2) (11) 実用新案登録番号

第2557335号

(45) 発行日 平成9年(1997)12月10日

(24) 登録日 平成9年(1997)8月22日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 6 B 11/02
E 0 4 F 19/02

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 6 B 11/02
E 0 4 F 19/02

H
T

請求項の数1(全3頁)

(21) 出願番号

実願平4-45003

(22) 出願日

平成4年(1992)6月29日

(65) 公開番号

実開平6-6366

(43) 公開日

平成6年(1994)1月25日

(73) 実用新案権者 000232955

株式会社日立ビルシステム
東京都千代田区神田錦町1丁目6番地

(72) 考案者

園井 健夫

東京都千代田区神田錦町1丁目6番地

株式会社日立ビルシステムサービス内
齊藤 国寿

東京都千代田区神田錦町1丁目6番地
株式会社日立ビルシステムサービス内

(72) 考案者

弁理士 武 誠次郎 (外1名)

審査官 小峰 利道

(56) 参考文献 特開 平4-164795 (JP, A)

実開 昭57-81269 (JP, U)

実開 平3-18074 (JP, U)

実公 昭48-44938 (JP, Y1)

(54) 【考案の名称】 エレベータの乗りかご側壁

(57) 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 エレベータの乗りかご内に隣接して配列してあり、乗りかごの側壁を形成する側板の対向端を折り曲げ、この隣接する側板の対向端間に互いに対向する起立部を形成し、これらの起立部間に落し目地を配置し、前記側板の表面に化粧パネルを配置してあるエレベータの乗りかご側壁において、前記化粧パネルは、互いに隣接する化粧パネルの縫目を、前記落し目地位置からはずらして配置してあり、この縫目位置の前記化粧パネルの表面に、表面目地が前記縫目を覆つて配置してあり、連結固定手段によって前記表面目地と前記側板とを、隣接する前記化粧パネルを挟持して互いに連結固定することを特徴とするエレベータの乗りかご側壁。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案はエレベータの乗りかご側壁に関する。

【0002】

【従来の技術】 図2は従来のエレベータの乗りかご側壁の要部の構成を示す図で、互いに隣接する側板10、11の対向端が折り曲げられ、この隣接する側板の対向端間に互いに対向する起立部10a、11aが形成してあり、これらの起立部10a、11a間に落し目地12を介在配置してあり、図示せぬ締め付け手段によつて落し目地12を挟持して側板10、11を互いに固定してある。さらに従来から、図2の構成の乗りかご側壁に美感性を持たせ且つ強度を高めるために、側板10、11の表面に、例えば金属薄板表面にほうろう処理を施した化粧パネルを接着配置することが行われている。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】この場合使用される化粧パネルは、製作上或いは取り扱い上から所定幅寸法のものが使用されるので、従来のエレベータの乗りかご側壁では、側板10、11上に接着配設される隣接する化粧パネル間には縫目が存在し、この縫目が乗りかご側壁の美感を損なうという問題があつた。

【0004】本考案は、前述したエレベータの乗りかご側壁の現状に鑑みてなされたものであり、その目的は化粧パネルの縫目部分で美感を損なうことのないエレベータの乗りかご側壁を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記目的は、エレベータの乗りかご内に隣接して配列してあり、乗りかごの側壁を形成する側板の対向端を折り曲げ、この隣接する側板の対向端間に互いに対向する起立部を形成し、これらの起立部間に落し目地を配置し、前記側板の表面に化粧パネルを配置してあるエレベータの乗りかご側壁において、前記化粧パネルは、互いに隣接する化粧パネルの縫目を、前記落し目地位置からずらして配置してあり、この縫目位置の前記化粧パネルの表面に、表面目地が前記縫目を覆つて配置してあり、連結固定手段によつて前記表面目地と前記側板とを、隣接する前記化粧パネルを挟持して互いに連結固定した構成により達成される。

【0006】

【作用】このように、側板の表面に配置される化粧パネルは、互いに隣接する化粧パネルの縫目を、隣接する側板の互いに対向する起立部間に配置した落し目地位置からずらして配置してあり、化粧パネルの縫目位置には、表面目地が化粧パネルの表面に縫目を覆つて配置してあり、連結固定手段によつて表面目地と側板とが、隣接する化粧パネルを挟持して互いに連結固定してある。このために、側板の表面に配置される隣接する化粧パネルの縫目は、表面目地で覆われるので化粧パネル表面の美感は損なわれない。また、表面目地の位置が落し目地位置からずれていますので、既設のエレベータに簡単に適用して、化粧パネルを配設して乗りかご側壁の美感が高められる。

【0007】

【実施例】以下、本考案の一実施例を図1を参照して説明する。ここで、図1は実施例の要部の構成を示す断面図である。

【0008】図1に示すように、エレベータの乗りかご内で壁面を形成して配設される互いに隣接する側板10、11の対向端が折り曲げてあり、この隣接する側板10、11の対向端間に互いに対向する起立部10a、11aが形成してある。そして、この起立部10a、11a間に落し目地12が配置してあり、落し目地12を挟持して隣接する側板10、11が互いに図示せぬ締付け手段で固定してある。また、側板10、11に落し目地12を覆つて、化粧パネル1、2が、隣接する化粧パ

ネル1、2の縫目位置を落し目地12からずらして配置してあり、この縫目位置に対応する側板10の位置には、縫目に沿つて所定の間隔で複数の貫通孔10bが形成してある。ここで、側板10、11上に配置される化粧パネル1、2は、薄い素地金属板1a、2a上に、ほうろう層1b、2bを形成した構造にしてある。

【0009】そして、隣接する化粧パネル1、2の縫目位置を覆つて、化粧パネル1、2の境界位置に表面目地3が配置してあり、この表面目地3には、複数の貫通孔10bにそれぞれ対応する貫通孔3aが形成してあり、貫通孔10bと貫通孔3aとを一致させ、連結固定手段であるリベット5によつて、表面目地3が側板10に連結固定してある。

【0010】このように、実施例によると側板10、11上に配設される化粧パネル1、2の縫目が表面目地3で完全に覆われるので、化粧パネル1、2は縫目のために美感を損なうことがなく、美感のある乗りかごの側壁が形成され、また、化粧パネル1、2の表面のほうろう層1b、2bによつて、側壁が荷物などにより傷付けられることが防止される。さらに、既設のエレベータの乗りかごの側板10を解体せずに、側板10に貫通孔10bを形成するだけで、側板10の内側からリベット5で化粧パネル1、2を簡単に固定することができ、既設のエレベータの乗りかご側壁の改造を容易に行うことができ、改造コストを低減することも可能である。

【0011】なお、実施例はリベットを連結固定手段に使用した場合を説明したが、本考案は実施例に限定されるものではなく、例えばボトルにより表面目地を側板に締め付け固定することもできる。

【0012】

【考案の効果】以上に説明したように本考案では、互いに隣接する化粧パネルの縫目を、隣接する側板端部間に配置した落し目地位置からずらして、化粧パネルを側板上に配置し、表面目地を、前記縫目を覆つて化粧パネルの表面に配置し、連結固定手段によつて表面目地と側板とを、隣接する化粧パネルを挟持して互いに連結固定してあるので、化粧パネルの縫目を表面目地で覆つて乗りかご側壁の美感を向上することができ、特に既設の乗りかごに、側板を解体せずに簡単に化粧パネルを取り付けて、乗りかごの側壁を美感に富む側壁に改造することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の一実施例の要部の構成を示す断面図である。

【図2】従来のエレベータの乗りかご側壁の要部の構成を示す断面図である。

【符号の説明】

1、2 化粧パネル

1a、2a 素地金属板

1b、2b ほうろう層

3 表面目地

3 a 貫通孔

5 リベット

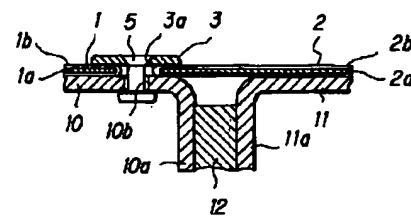
10、11 側板

10 a、11 a 起立部

12 落し目地

【図1】

【図1】



【図2】

【図2】

